

一般社団法人日本小児看護学会
2021年度 第1回定時社員総会（評議員会）議事録

日時：2021年5月30日（日）13:00～16:00

場所：Zoomを使用したWeb会議

理事：浅野みどり、及川郁子、大村知子、勝田仁美、上別府圭子、塩飽仁、添田啓子、檜木野裕美、新家一輝、野間口千香穂、三輪富士代、薬師神裕子

監事：濱中喜代

評議員出席者：荒木暁子、有田直子、市原真穂、内正子、江本リナ、大見サキエ、加藤令子、鎌田佳奈美、来生奈巳子、込山洋美、佐藤朝美、佐藤奈保、関根弘子、高野政子、高橋泉、竹之内直子、田村恵美、筒井真優美、泊祐子、友田尋子、中野綾美、中村伸枝、奈良間美保、西田志穂、西田みゆき、野中淳子、服部淳子、濱田米紀、濱田裕子、古橋知子、古谷佳由理、松浦和代、松岡真里、水野芳子、（五十音順）

オブザーバー：飯村直子、井上由紀子、二宮啓子、萩原綾子、平林優子、三上千佳子、渡邊輝子（五十音順）

出席社員数：49名（会場46名、委任状3名）

欠席社員数：5名

【開会】

出席者数の確認

司会の塩飽副理事長より、13:05に開会が宣言され、出席者の確認があった。一般社団法人日本小児看護学会評議員数54名（2021年5月30日現在）のうち、会場出席者46名（うち3名は遅れて出席）、委任状による出席3名、欠席5名であり、定款第27条2項により評議員の過半数の出席を満たしていることから、社員総会が成立した。なお、議事録作成のために動画録画の承諾の確認をした。

理事長挨拶

新型コロナウイルスのワクチン接種が始まったとはいえ、コロナ禍において公私ともに日々苦労が多かったことと拝察する。

2020年度は本学会が30周年という大事な節目であったことから、30周年記念事業として取り組んできた。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、第30回学術集会もオンライン開催となった。そのため、国連子どもの権利委員である大谷美紀子弁護士による特別講演は配信できたが、予定していた学術集会のあゆみのパネル展示等は第31回の学術集会で行うこととした。また、人材養成事業の小児看護スキルアップ研修については、医療依存の高い子どもと家族の看護コースが2020年12月に、小児看護実践基盤コースが2021年3月にスタートすることができた。加えて診療報酬検討委員会の地道な努力が功を奏して、入退院支援加算Ⅲの専任の看護師の配置を検討して小児在宅医療に関わる適切な研修の受講の要件となる研修として、本学会のスキルアップ研修の医療依存

の高い子どもと家族の看護コースが厚労省から承認されることとなったことは大きな成果であった。その他、新型コロナウイルス感染拡大に伴い総務委員会の下に、本部のワーキンググループであるCOVID-19と子どもの療養生活ワーキンググループを設置して活動を開始している。

今期の理事会はコロナ禍の学会活動ということで様々予定外のことがあり、2回の総会もオンラインでの開催となったが、限られた状況の中で努力して活動してきた。しかしながら、至らない点も多々あるかと存ずる。本日の総会は皆様の貴重な意見を伺う機会であるためどうぞよろしくお願ひしたい。なお、今回の社員総会をもって役員は、新理事体制に移る。これまでの皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

補足：ここで、次期の理事候補がオブザーバーとして参加されていることが紹介された。

議事録署名人の承認

定款第29条により、社員総会の議事録署名人として、友田尋子評議員、市原真穂評議員が推薦され、出席した評議員の44名100%の賛成で承認された。

議長選任

定款第26条により、理事長浅野みどりが議長に任命された。

【報告事項】

1. 一般社団法人日本小児看護学会 2020年度理事

会報告 (p.1)

浅野理事長より資料に基づき報告された。

1) 第1回臨時Web理事会報告(2020年4月13日)

新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)対応のため、第30回学術集会について開催方法をWebによる非同期型とすることが決定された。また、社員総会についてもWebで開催することが決定された。

2) 第1回理事会報告(2020年5月24日)Web開催

①2019年度収支決算ならびに監査結果、2020年度予算案が承認された。②社員総会では新しい地区区分A～Hの8区分にすることについて審議することが承認された。本年度より初めて実施するWebでの選挙方法について、社員総会で説明を加えることが確認された。③30周年記念事業に関して、記念ピンバッジのデザインが承認され、会員に郵送することとなった。

3) 第2回理事会報告(2020年8月29日)Web開催

①COVID-19と子どもの療養環境WGの立ち上げに関して承認された。②選挙に関して投票率を上げる努力をしていくことが検討された。

4) 第3回理事会報告(2020年10月4日)Web開催

①総務より人件費アルバイトと資格・専門性を要する人件費アルバイトの内容等を検討し承認された。②災害支援事業助成選考の結果についても検討された。

5) 第1回書面理事会(2020年12月2日)

JANA 2021-2022年度役員選出に際する被選挙人の推薦に関する依頼を受け、本学会会員である奈良間美保氏(京都橘大学 教授)を理事候補に、二宮啓子氏(神戸市看護大学 教授)を監事候補に推薦することが提案され、満場一致で承認された。

6) 第4回理事会報告(2020年12月20日)Web開催

30周年記念事業に関して小児看護スキルアップ研修のうち、医療依存度の高い子どもと家族の看護コースの受講申し込み状況が報告された。30周年記念品であるピンバッジを学会誌に同封して発送したことが報告された。

7) 第5回理事会報告(2021年3月14日)Web開催

①各委員会からの2020年度事業報告、2021年度事業計画案が承認された。2021年度予算案について基本方針が承認された。②評議員(2021年度～2024年度)選挙と、続いて行われた理事(2021年度

～2022年度)・監事(2021年度～2024年度)選挙の結果が報告された。また投票率についても報告された。

2. 2020年度定時社員総会報告(2020年6月14日)(p.4)

Zoomを使用したWeb会議で行われた。出席者52名(会場出席者47名、委任状5名)、欠席社員2名であった。

【報告事項】

資料を参照する。

【審議事項】

①定款細則について、定款細則第4章 評議員の選出選挙地区区分の見直しおよびWEB投票の変更に伴う改定案が審議され、承認された。②2022年度 第32回学術集会会長(福岡市立こども病院 看護部長 三輪富士代氏)が推薦され、承認された。

3. 事務局報告 (p.5)

2020年度の正会員入会者数は191名、正会員復会者数が2名、退会者数が45名で、1年間で148名の増員であった。2020年度末現在、会員数2,312名、正会員2,299名、名誉会員9名、賛助会員4名である。地区別の会員数は資料参照とする。会員の内訳は教育関係960名、医療関係会員数1062名であった。正会員の会費納入率は82%であることが報告された。

4. 事業報告

各委員長より、資料に基づいて報告された。

1) 学術集会報告 (p.6)

当初6月に参集形式の予定であったが、COVID-19の感染状況から通常の開催が難しいため、4月中旬には開催方法・時期の変更の決定をした。当学会学術集会は半数以上が医療現場からの参加であることや、講演での演者には既に日程調整をしていたところではあったが変更を伝える事となった。オンラインでの開催方法の検討を重ねた。学会長である二宮啓子氏には大変尽力をいただいた。2020年9月19日～30日にオンライン(基本はオンデマンド形式)で開催した。テーマセッションでは一部ライブ配信をした。メインテーマを「子どもと家族のセルフケアを支える看護」とし、新しい企画として病気や障がいのある青年期の当事者とのコラボ企画、30周年記念講演も開催された。口演56題、示説126題で、参加者数1,031名であった。

2) 総務委員会報告 (p.6)

①社員総会、会員集会、理事会の運営を行った。

②総務委員会は年5回(理事会前にオンライン

で)開催した。外部機関との交渉を行った。

③学会の運営に関しては、COVID-19 と子どもの療養生活ワーキンググループを立ち上げ、医療機関における子どもの療養生活と看護師の実態調査を開始した。

④学会設立 30 周年記念事業の準備を行った。第 30 回学術集会にて設立 30 周年記念講演を大谷美紀子先生(国連子どもの権利委員会委員・弁護士)より「小児看護に子どもと子どもの権利の視点を」を録音で実施した。パネル展示は中止し、第 31 回学術集会での実施延期とした。

⑤外部団体との連携活動として JANA との連携活動を行った。APN 制度に関する意見交換会を WEB で実施した。それに先立ち本学会でも有志により意見交換会を実施した。厚生労働省新型コロナウイルス感染症対策保健所支援の人材バンク (IHEAT) 登録への協力を会員に行った。JANA には 47 学会内 13 学会から手上げがありその中で本学会も登録された。公益法人 小児科学会より AHT に関する見解への賛同および HP 掲載への依頼があった。(2021 年 3 月 17 日掲載)

3) 編集委員会報告 (p. 6)

①学会誌第 29 巻の編集・J-STAGE 公開している。2021 年 3 月 10 日時点で、2019 年度の査読継続した 17 編、2020 年度の新規投稿は 49 編あり、査読を継続しているのは 18 編である。採択された論文は年 3 回 J-STAGE 公開されている (2020 年 7 月: 研究 2 編, 実践報告 1 編, 資料 4 編、2020 年 11 月: 研究 7 編, 資料 1 編 2021 年 3 月: 研究 6 編, 実践報告 1 編, 資料 4 編)。

②学会誌第 29 巻の冊子発行は、2020 年 12 月 20 日に、研究 11 編, 実践報告 3 編, 資料 10 編が掲載された。1,789 部発行した。

③学会誌掲載論文転載許諾申請 2 件を承諾した。

④2020 年 12 月 20 日に、二重投稿等を防止する目的で投稿規定と投稿チェックリストを改正した。

⑤J-STAGE 公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信を行った。

⑥学術集会における委員会企画の検討と実施に関して、第 31 回学術集会テーマセッションで担当する。

4) 広報委員会報告 (p. 7)

①②学会ホームページとメールマガジンの更新と配信を月に 1~4 回程度行った。トップページに「COVID-19 関連情報」を追加し、COVID-19 に関連する小児看護実践・教育についての情報を掲載した。また、「一般の方へ〜子どもと家族のこと」を追加し、子どもの事故防止や COVID-19 について子どもに説明するためのツール等の情報を掲載した。

③学会紹介用リーフレットの英語版リーフレッ

トの見直しを行い、掲載情報のアップデートを行った。

④ニュースレターの発行を行った。年に 2 回発行した。56 号は第 30 回学術集会開催にあたってのメッセージ、理事長声明の「COVID-19 感染拡大による未曾有の出来事の中で一小児看護が取り組むべきこととは」を掲載した。57 号は日本小児看護学会 30 周年記念号とし、学会員から募集した学会に関する思い出や期待すること等の「ひとこと」を掲載した。

⑤学会員を対象として小児看護における COVID-19 に関するアンケートを行い、COVID-19 感染拡大による子どもの様子の変化や、実践・教育・行政の場での影響について調査を行った。調査結果は第 1 報、第 2 報として学会ホームページおよび第 30 回学術集会にて報告した。

⑥ European Association for Children in Hospital (EACH) の許可を得て、EACH CHARTER の翻訳を行っている。翻訳後は日本語版として EACH ホームページに掲載される予定である。

5) 学術・研究推進委員会報告 (p. 7)

①第 12 回(2020 年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考について、評議員から研究奨励賞選考委員 10 名を選出した。計 14 編から、5 編を推薦し、上位 1 編を最終候補論文として選出し、理事会の承認を得て下記 1 編が受賞論文に決定した。遠藤晋作, 上田敏丈, 堀田法子(2019): 先天性心疾患をもつ学童期までの子どもに対して母親が行う病気説明プロセス, 28, 274-283。

②第 11 回(2021 年度)研究助成について、1 件の申請があった。申請書類の確認、採否の検討、理事会での承認を得て助成を決定した。野田千恵: 新型コロナウイルス感染症 2019 に伴う小児発熱外来の立ち上げおよび運営に対する問題点の抽出

③川出富貴子国際発表助成は、今年度応募がなかった。名誉会員川出富貴子先生からのご寄付の終了後の国際発表助成について検討し、一般社団法人日本小児看護学会国際発表助成とすることとし、理事会の承認を得て決定した。

④第 30 回学術集会の開催に向けて、開催方法の変更の検討、企画、準備、運営の補助を行った。第 31 回学術集会の企画、準備の補助を行った。

6) 教育委員会報告 (p. 8)

①(研修会)日時: 2021 年 1 月 11 日(月・祝)、Zoom 開催: テーマ: 「家族を支えるヒントを得よう!! 一気に家族のみかたとケアの手がかり」を開催し、参加者は 80 名(会員)であった。終了後のアンケート結果では、オンライン開催がよかったとの意見が多数あった。

②(地方会) 地方会開催支援として、関東地区代表者: 金泉 志保美氏(群馬大学)は、コロナ感染の影

響により対面開催が難しく次年度に延期予定となった。オンラインでの開催も検討したが、地方会の意味（その地域での会員を増やす、地域の中での交流を促す）を踏まえ、対面が望ましいということで今回は中止し、次年度に延期となった。

③(医療的ケア研修セミナー共催企画):2回 Web 開催。日時:2020年4月26日、11月15日。共催学会として、今後も、看護職からの報告の機会が持てるよう要望していく必要がある。

7) 倫理委員会報告 (p.9)

①第30回学術集会において、学会参加者が自部署での日常的な倫理的課題に気づき考える機会としてテーマセッションをディスカッション形式で企画していた。そうしたなか、第30回学術集会がCOVID-19 感染拡大によりオンライン Web 開催となったため、今回はテーマセッションを取り下げ、次年度に見送ることとした。

②地方会の企画に関して、研修会を参集形式で考えていたが、COVID-19 の影響のため、今年度は見送ることとした。参集形式ではなく、オンライン研修という選択肢も検討したが次年度へ延期することとした。

③「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」(2010年)について、今年度は月に1回のオンライン委員会を開催した。本指針作成より10年以上が経っているため、内容が医療の現状にあっているのかを含め、新生児看護学会等からの要望を考慮して、新生児領域における倫理的課題に関連した事例などの見直しを行った。修正は2021年3月を目指していたが、現在も最終見直しを継続中である。改訂版は今後HPの掲載と冊子での配布をする予定である。

8) 小児看護政策委員会報告 (p.10)

①委員会開催 5回(Web会議)

②小児看護に関する政策提言に向けて:1)成人との混合病棟に入院する子どもの療養環境の向上について提言案をまとめた。今年度の学術集会で検討し、会員からの意見を参考にまとめる予定である(別添1)。2)地域における小児看護活動の役割拡大については、特別支援学校以外の学校における慢性疾患や医療的ケアのある子どもへの健康支援についての検討は、十分な情報をえることができず提言をまとめるまでには至らなかった。

③健やか親子21(第2次)推進協議会等での参加団体としての活動について、今年度は情報提供が主な活動であった。

④日本医療事故調査支援センターへの協力:医療事故個別調査部会への派遣依頼が2件あり対応した。

⑤人材養成ワーキンググループとしての活動:30周年に向けてスタートした人材養成事業「小児

看護スキルアップ研修」について、主に小児看護実践基盤コースの作成・編集に携わった。

9) 診療報酬検討委員会報告 (p.10)

①2020年度は会議を7回実施した。(遠隔会議)

②令和4年度診療報酬改定に向け、診療報酬改定要望書の作成、他学会との共同提案について検討調整した。本学会からは以下の3点を要望した。1)不適切な養育環境にある要支援児童と家族に関する専門の対策チームを設置している小児入院施設への体制加算(共同提案:日本看護研究学会、小児総合医療施設協議会)2)小児慢性特定疾病児童に対する成人移行支援指導料を要望する。要件として、移行支援チームを有し、成人診療科との連携が行われていることとする(共同提案:日本看護研究学会)。3)訪問看護ステーション機能強化型1・2の重症度の高い利用者の受け入れに、別表7に加え別表8の要件を追加(共同提案:日本看護研究学会、日本訪問看護財団)

その他、他学会の共同提案について検討・調整を行った。

③入退院支援加算3 看護師(専任)の配置要件として、「小児在宅移行に係わる適切な研修の受講」研修について疑義解釈 要件となる研修として本学会のスキルアップ研修「医療依存度の高い子どもと家族の看護」の追加を看保連を通して依頼し、厚労省から承認された。

④小児病棟の夜勤に対する体制の実態調査について、郵送法で質問紙調査を実施した。小児入院管理料1-3の全国の医療施設、発送件数合計356件、回収149件 回収率41.8%で調査結果をまとめ分析中である。72時間以上の施設が約半数であることが明らかになった。

⑤一昨年度から昨年度にかけて調査「小児に関する診療報酬の算定状況と看護における課題～平成30年度改定を受けて～」の論文投稿に向けての検討を行った。

⑥診療報酬にかかわる説明会や委員会に参加し活動した。

⑦診療報酬について、学会員への啓発活動として、第30回学術集会テーマセッションで実施し、第31回学術集会テーマセッションでも企画している。

⑧第30回テーマセッション資料を修正検討し、令和2年度診療報酬改定の小児看護に係わる内容について、学会ホームページにて閲覧できるようにした。

10) 国際交流委員会報告 (p.11)

①2020年に開催された小児看護に関連した国際カンファレンスの紹介をメールマガジンと学会HPで配信した。

②「国際学会に参加してみませんか?～エント

リーから発表までのプロセス」の小冊子を作成した。

③ Asia Pacific Paediatric Nurses Association (APPNA) オンライン理事会に2回参加した。

④ APPNA 主催による研究協力の検討: これまでは学会等の参加のみであったが、共同研究を考えていこうということで、アジア太平洋地域における小児看護の質指標に関する調査協力の検討を行っている。

⑤ 川出富貴子国際発表助成受領者のポスター展示 (第30回学術集会オンライン展示)を行った。西宮 岳 (厚生労働省医政局看護課) “Diaper changing technique: Efforts against the eradication of MRSA.”

酒井佳織, 中村伸枝, 佐藤奈保 (千葉大学大学院看護学研究科) “Parents’ perception of preterm infants’ motor development after discharged from the NICU: From birth to 4 years.”

⑥ 世界看護科学学会 (WANS) 将来計画に関する特別委員会の Zoom 会議に参加した。

⑦ 国際交流委員会の開催を以下の日程で行った。第1回: 2020年4月26日(日)13:00-15:00 Zoom ミーティング、第2回: 2020年8月 メール会議、第3回: 2021年1月30日(土)10:00-12:00 Zoom ミーティング

11) 災害対策委員会報告 (p. 12)

① 委員会 5回 (web) メール審議 3回実施した。

② 福島県沖を震源とする地震発生時には、災害対策委員会メーリングリストを活用して被災した地域での情報収集を行うとともに、情報を共有した。理事会でもメーリングリストで情報を共有した。限定的な影響にとどまったため、情報共有のみの対応を行なった。

③ 災害ネットワーク作り: 災害対策マニュアルの点検と見直しを行い、現状に則して改正を行ない、平常時シミュレーションを実施した。ネットワークメンバーの間では災害対策マニュアルについてはもう少し検討が必要なのではという意見がある。

④ 教育推進活動: 災害看護研修会 (オンライン) を実施した。実施会員マイページより研修会の動画を公開した。テーマ「COVID-19 感染拡大状況下での対応と取り組みー病気をもつ子どもと家族の看護を中心に」、4人の演者の発表後、質疑応答を行なった。参加者: 81名、研修会終了後学会 HP 会員マイページより動画公開した。現状のシステムでは動画配信のアクセス件数が把握できないため、今後検討事項である。

⑤ 第30回学術集会ではテーマセッションを計画していたが、web 開催となったため中止した。

⑥ 学会ホームページの災害関連情報ページの内容について、COVID-19 関連情報については、学会 HP に特設ページが開設されることになり、広報委員会とともに情報提供を行なった。

⑦ 災害支援に関する情報や委員会についての広報は、関連団体と連携して必要な情報を提供している。

⑧ 災害支援事業助成について: 1) 2020年度から、新規の震災支援事業助成を開始した。制度設計とともに公募を実施したが、2件の公募があった。選考を経て、承認された2件に対して助成金交付を行った。市原真穂 (千葉科学大学)。事業名: Covid-19により健康上の配慮が必要な子どもと家族・支援者向けの小児看護専門看護師有志の会による Web サイトでの情報発信、および相談事業 助成金額 200,000円、鈴木智恵子 (佐賀大学)。事業名: 佐賀県内の子どもと家族に対する新型コロナ感染症および水害などの災害教育に関する事業 助成金額 175,000円 2) 2021年度の災害支援事業助成の公募を行った。1件の採択が決定し、公開する予定である。

⑨ 関連団体との連携: 日本小児医療協会との連携等を継続して行った。

12) 選挙管理委員会報告 (p. 13)

① 委員会 (Web も含む) を3回 (8月23日、1月9日、2月23日) 開催した。

② 選挙実施のスケジュールや WEB 投票の内容について検討し事務局と調整した。

③ 選挙告示に関しては会員に関しては葉書で行い、投票率向上のため第30回の学術集会でのポスターと学会 HP で広報を行なった。

④ 評議員選挙の開票と評議員候補者への承認依頼を行なった。

⑤ 評議員候補者による理事・監事の投票について事務局と調整した。

⑥ 理事・監事選挙の開票と理事・監事候補者への承認依頼を行なった。

13) 30周年記念事業の準備・検討 (p. 13)

① 30周年記念事業の計画実施状況に関しては、先に報告したとおりである (資料を参照のこと)。

② 人材養成事業: 小児看護スキルアップ研修の2コースをスタートした。それに関連した受講申し込みの検討や広報を行い、次年度以降の管理体制を検討した)。

質疑応答

質問なし。

【審議事項】

1. 2021年度から2024年度の評議員・監事及び2021年度から2022年度の理事選挙開票結果 (p.

14-16)

内選挙管理委員長より資料をもって説明がなされた。

質疑応答

質問なし。

決議権のある投票により審議を経て、出席した評議員の100%の賛成が認められ、可決された。継続理事となる塩飽理事、野間口理事、三輪理事より、就任の承諾が得られた。

定款施行細則第9条の8に基づき、理事長及び副理事長の選出を行った。新理事・監事の方々は、理事長選出のための協議をして頂いた。

休憩（理事・新理事の協議）

協議を行った結果新理事長には塩飽仁氏、副理事長には野間口千香穂氏が推薦された。

新理事長 副理事長の投票を行った。決議権のある投票により審議を経て、出席した評議員の100%の賛成が認められ、可決された。

指名理事についての承認、井上由紀子氏（仙台赤門短期大学）、三上千佳子氏（宮城大学）が推薦された。

指名理事の投票を行った。決議権のある投票により審議を経て、出席した評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

2. 2020年度会計報告

大村理事より資料を基に報告された。

1) 収入の部 (p. 17)

2020年度の会費収入合計は24,972,920円、収入合計は40,787,013円であった。前期繰越収支差額を合わせた収入合計は115,138,995円であった。

2) 支出の部 (p. 17)

2020年度の支出合計は23,592,005円、当期収支差額は17,195,008円、特別会計繰入金支出は5,633,412円となった。次期繰越金収支差額は85,913,578円である。

3) 特別会計報告 (p. 18)

2020年度の収入合計は5,633,471円、支出合計は5,504,086円、収支差額は129,385円となり次期繰越金は3,515,930円となった。

4) 正味財産増減計算書 (p. 19)

経常増減として経常収益、経常費用、及び経常外増減として経常外収益、経常外費用の詳細を示

している。

5) 2020年度貸借対照表 (p. 20)

科目の詳細は財産目録(p21)を参照する。年度末現在でのすべての資産と負債についての状態を詳細に示している。

6) 2020年度財産目録 (p. 21)

年度末現在でのすべての資産と負債についての名称などを詳細に示している。正味財産は、94,134,028円となっている。

7) 非営利性が徹底されていることの確認書 (p22)

非営利性が徹底されていることについて、浅野理事長により署名・捺印されたことが報告された。

3. 2020年度会計監査報告 (p. 26)

濱中監事、内田監事にて、2021年5月7日に2020年度決算報告について監査を行い、会計帳簿、証拠書類を照合調査の結果、特に問題なかったことが報告された。

また、2020年4月1日から2021年3月31日までの事業年度の理事の職務執行について監査されたこと、方法及びその結果について報告された。

質疑応答

質問なし。

審議を経て、出席した評議員の100%の賛成が認められ、可決された。

4. 2021年度事業計画案

資料に基づき各委員長より報告された。

社員総会:1回(5月30日)、会員集会:1回 2021年6月26日(土)17:00~18:20 学術集会でのオンライン開催を行なう。理事会の開催予定は5回、第1回2021年5月9日(日)、第2回以降日程は未定である(次期理事会)。

1) 第31回学術集会 (p. 27)

会期:2021年6月26日(土)・27日(日)(ライブ配信)、2021年7月1日(木)~7月18日(日)(オンデマンド配信)、開催形式:オンライン開催、会長:添田啓子氏(埼玉県立大学保健医療学部) テーマ:コラボレーションで小児看護の未来を拓く

2) 編集委員会 (p. 27)

①学会誌第30巻の編集・採択論文のJ-STAGE公開(年3回)

②学会誌第30巻の冊子発行

③学会誌掲載論文転載許諾審議

④学術集会での投稿者向けテーマセッション(案)企画および実施

⑤J-STAGE 公開論文のメディカルオンラインにおける電子配信

3) 広報委員会 (p. 27)

①EACH CHARTER の翻訳の完成

②第 31 回学術集会における COVID-19 に関するアンケート調査結果の報告

③学会ホームページの更新

④メールマガジンの配信

⑤学会用リーフレット英語版を完成させ、ホームページに掲載しダウンロードを可能にする。

⑥ニュースレターの発行 (年 2 回)

4) 学術・研究推進委員会 (p. 27)

①一般社団法人日本小児看護学会研究奨励賞制度：第 13 回(2021 年度)日本小児看護学会研究奨励賞の選考を行う。

②一般社団法人日本小児看護学会研究助成：第 12 回 (2022 年度) 研究助成を公募と選考をする。

③一般社団法人日本小児看護学会川出富貴子国際発表助成：年 2 回の公募を行い、1 期は締め切った。引き続き公募を行う。

④日本小児看護学会学術集会運営支援事業：日本小児看護学会第 31 回学術集会において、企画、準備、運営の補助を行う。また、第 32 回の企画、準備の補助を行っている。いずれも感染状況を踏まえた中での準備を行っている。

5) 教育委員会 (p. 28)

①2021 年度研修会はオンラインもしくは、オンラインと対面のハイブレッド開催予定。テーマはアンケート結果を参考に次期の体制で決定する。

②地方会：昨年度延期した、関東地区 代表者：金泉 志保美氏(群馬大学)9~11 月頃(時期は未定)に対面で開催予定である。

③医療的ケア研修セミナー共催企画：第 19 回医療的研修ケアセミナーへは 11 月 23 日 Web で開催予定である。

6) 倫理委員会 (p. 28)

①「小児医療・保健・福祉の現場での実践者・教育者・研究者の倫理的感性・意識が高まる」を目標に活動計画を以下の 3 つ挙げた。

1) 第 31 回 JSCHN 学術集会でテーマセッションを開催。2) 地方会を Zoom で開催。3) 「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針」の修正改定版について、HP へのアップ及び冊子化・配布し会員への周知をはかる。

②「日常的な臨床場面での倫理的課題に関する指針(改訂版)」「子どもを対象とする看護研究の倫理指針」「子どものエンド オブ ライフケア指針 子どもと家族がよりよく生きることを支えるために」など、委員会作成指針の周知、活用を広げるために活動計画を挙げた。1) ヒヤリングまたはアンケートを通して、指針の活用状況等を確認し、現場での活用方法を検討する。

7) 小児看護政策委員会 (p. 28)

①成人との混合病棟に入院する子どもの療養環境の向上に向けて」提言案をまとめ、広報等を行う (資料 1 を参照)。

②日本小児看護学会第 31 回学術集会テーマセッションにおいて「成人との混合病棟に入院する子どもの療養環境の向上にむけて」提言に向けての意見交換の実施予定である。また、メールマガジンを通じて会員からの意見を集取することを検討中である。

③健やか親子 (第 2 次) 推進協議会参加団体としての活動を引き続き行う。

④日本医療事故調査支援センターへの協力を引き続き行う。

8) 診療報酬検討委員会 (p. 29)

①令和 4 年度診療報酬改定要望書提出後、看保連および厚労省の意見・要望への対応を行う。

②診療報酬について学会員への啓発活動として第 31 回学術集会テーマセッション「小児慢性疾患をもつ子どもからおとなへの“移行支援”を考えよう～診療報酬の切り口から：診療報酬検討委員会～」を開催する。学会ホームページの委員会ページにテーマセッション資料を再検討・修正し掲載する。

③令和 4 年度の診療報酬改定要望書提出後の課題について検討・調査を進める。

④小児病棟の夜勤に関する看護体制の全国実態調査のまとめ・報告を行う。

⑤「小児に関する診療報酬の算定状況と看護における課題～平成 30 年度改定を受けて～」の論文投稿準備を進める

⑥看護系学会等保険連合会、三保連(外科系学会社会保険連合、内科系学会社会保険委員会連合、看護系学会等社会保険連合)等の診療報酬の検討会に参加し、また介護報酬や診療報酬以外の予算措置についても情報を収集し、広い視野で診療報酬のあり方について検討する。

9) 国際交流委員会 (p. 29)

①小児看護に関する国際学会・カンファレンスをホームページ・メールマガジンにて紹介を行う。

②APPNA 主催による学術集会 7th Asia Pacific Congress of Paediatric Nursing の開催 テーマ：「Every New Born, Every Child, Every Where」 日程：2022 年 3 月 10 日(木)～3 月 13 日(日) 方法：対面とオンラインのハイブリッド方式(予定)(感染拡大の状況について 2021 年 7 月に開催方法を再検討する)開催場所：パールコンチネンタル ホテル ラホール (Pearl Continental Lahore) (パキスタン) 詳細が決定次第配信する。

③APPNA 理事会へ参加する。

④APPNA 主催による研究活動への参加

⑤WANS 将来計画特別委員会への参加

⑥国際交流委員会活動の紹介(第 31 回学術集会でのパネル展示)

10) 災害対策委員会 (p. 29)

①各地区の災害ネットワーク作り:シミュレーションの実施によるネットワークの充実ネットワークのあり方、災害対策マニュアルの検討を行う。

②教育推進活動:災害に関する啓発のための研修会を開催する。開催地:九州地区(拠点は宮崎県、熊本県のいずれか) 開催方法はオンライン開催の方向で検討中である。

③第 31 回学術集会:パネル展示:東日本大震災から 10 年が経過し震災支援金交付事業を通して支援した事業のその後の紹介等を行う。

④一般社団法人日本小児看護学会災害支援事業助成:2021 年度助成対象事業選考と助成金交付を行い、2022 年度公募受付、選考を実施する。

⑤学会ホームページにおける災害関連情報の整理・更新

⑥災害支援に関する情報や委員会活動についての広報

⑦関連団体との連携

11) 選挙管理委員会 (p. 30)

①委員会の開催(3 回)

②2020 年度の評議員・理事・監事選挙の評価と次回に向けての課題抽出

③2022 年度理事選挙に向けての準備

④委員会の申し合わせ事項の検討および修正:Web 投票、候補者への承認の方法等の課題

12) 30 周年記念事業の準備・検討 (p. 30)

①30 周年記念事業の企画準備・実施:第 31 回学術集会におけるパネル展示:JSCHN30 年の歩み(第 20 回~第 30 回学術集会を中心に)

②人材養成 小児看護スキルアップ研修 1) 委員会(サブグループ)の設置による引継ぎ 2) 医療依存度コースの Web 集合研修の実施(2 回) ホームページで申込受付を開始した。3) コースの維持・運営管理 4) 広報活動を含め評価を行っていく。

13) COVID-19 と子どもの療養生活ワーキンググループ活動 (p. 30)

①医療機関における子どもの療養生活と看護師の実態調査について、アンケート調査の分析と、インタビュー調査を開始する。

②第 31 回学術集会で、理事会特別企画シンポジウム「COVID-19 と子どもの療養生活」の企画開催予定している。

質疑応答

・COVID-19 の影響で小児看護の実習が進まないことを受けて、ハイブリッドで様々なことを実施し

ていると思う。ほとんど見学実習でようやく先日より N95 マスクを着用してダイレクトケアができるようになった。しかし、学生から子どもとのコミュニケーションが取れないなどのさまざまな課題が出ている。この機会に、子どもにダイレクトに実習ができないことに対して工夫している大学等の教育を皆さんで共有できるようなシステムができないか?多くの教育機関が関心を持ってできると思うし、将来小児看護を担っていく学生たちにいい教育ができるのではないかと考えている。検討いただけたらと思います。

▶ 昨年度も若手教育に関するサポートの研修や、教育に関することをしたいとの意見もあった。本学会でもそれは承知し、必要性を感じている。今年度は着手できていなかった。小児看護特有の教育の問題や課題やアイデアを検討する機会がないかという意見であると理解したが、大変重要なことであると考えている。

▶ 次年度体制が変わるが、そのテーマの提案をする予定である。1 回限りで完結する内容ではないと思う。これまでは臨床が主なテーマであったため次年度の体制に伝達する。

▶ 第 31 回学術集会、テーマセッション 12 「COVID-19 が引き起こした小児看護実習の新しい方法について共有しましょう」、テーマセッション 3 「小児看護学実習固有の学びとは」COVID-19 の影響を踏まえながら質的に重要なことは何なのかを考えるテーマセッションとなっている。先ずそこをとっかかりにしていたらと思う。

・今回は COVID-19 であるが、今後何があるかわからないのが今の世界で、これが収束したら次の感染症が起こる可能性もある。やはり教育面においても、継続して実施しなければいけない。何かシステムなどを模索していくことが今度必要なのではと思っている。

▶ 教育委員会がカバーする範囲が広く 2 つほどのサブグループを作り、委員も増員しなければ対応できないのではないかという議論が出た。次期の理事会で検討を進めていければと思う。

・APN 制度の検討に関して、昨年初めて意見交換会を評議員の有志で実施した。今後も継続すべき大事な課題であると考えているため、引き続き次期の理事の皆様で検討いただきたい。関連情報として、2021 年度から日本 NP 学会が JANA の会員学会となった。

・編集委員会へ、学会誌の投稿辞退が今年度多いと思ったが、規定に沿っていなかったのか、査読

のプロセスの中で継続できなかったのか、学会としてサポートをすることで継続できたのかそうできなかったのか、原因は何だったのか？

- ▶ 詳細はそれぞれの事情もあると思うが、今年度辞退が多かったのは、投稿規定や中身に関してというよりは、今年度はCOVID-19の対応で時間が取れない、1ヶ月の修正期間に間に合わせることができなかったという方が多かった事実はある。倫理的な事で取り下げたものは、近年はほぼなかった。時間切れが多かった。時々目立つのは、投稿と査読のマナーがよくわからずに、著者たちが意見を反映させた修正投稿に対して、何をどういう理由で直したかを説明していないことが多く「直しました」という形で提出されるため、査読の回数が本来3回で終了するところが、4回以上になって難儀したことがある。4回を超えた査読でもアクセプトされた論文もある。投稿することと査読を受けることについてのレクチャーが今度も必要である。編集委員会はそれに取り組んでいく予定である。JANAからも分割投稿に関してコメントが出ているが、その案件が多く、最終的に取り下げになった方が多かった。
- ▶ JANAから論文投稿ハンドブック「不適切な行為を避けるために」(ダウンロード可能)が发出されておりそれも活用頂きたい。JANA総会前意見交換会においても指導される先生方にもしっかりと把握して欲しいとの意見が出ている。以上のことを周知して頂きたい。

審議を経て、2021年度事業計画案について決議権のある評議員の100%の賛成が認められ、可決された。

5. 2021年度予算案

大村理事より資料に沿って提案された。

【一般会計予算案】(p.31)

1) 収入の部

- ①会費 23,030,000円を計上した。
- ②雑収入 400,000円を計上した。
- ③学術集会収入 19,020,000円を計上した。
- ④研修会参加費 1,000,000円を計上した。

当期収入合計は43,456,000円を見込み、前期繰越額を含め収入合計は129,369,578円を見込んでいる。

2) 支出の部

- ①会員集会費 191,000円を計上した。
- ②会議費 1,685,000円を計上した。
- ③事業費 33,041,992円を計上した。
- ④事務費 6,429,500円を計上した。

⑤予備費 500,000円を計上した。

以上、当期支出合計は41,847,492円である。

【特別会計予算案】(p.32)

1) 収入の部

当期収入合計は0円で前期繰越収支差額は3,515,930円である。

2) 支出の部

- ・人件費
- ・会議費
- ・旅費・交通費
- ・郵送・通信費
- ・消耗品
- ・印刷費
- ・雑費
- ・謝金

以上、当期支出合計は1,609,600円である。

以上、2021年度予算について決議権のある評議員の100%の賛成が認められ、可決された。

6. 名誉会員の承認について

本年度は昨年度に引き続き理事会において、新規名誉会員の推薦がなかったことが報告された。

7. 2023年度第33回学術集会会長の承認

第33回学術集会会長として、荒木暁子氏が、理事会から推薦された。

決議権のある評議員の過半数の賛成が認められ、可決された。

荒木暁子氏(日本看護協会常任理事)からご挨拶があった。

【2022年度 第32回学術集会会長挨拶】

第32回学術集会会長の福岡市立こども病院看護部長 三輪富士代氏からご挨拶がなされた。紹介動画が上映された。メインテーマ選定の背景、企画委員の紹介、会場や交通アクセスの紹介、の報告があり、協力及び参加が呼びかけられた。

会長：三輪富士代(福岡市立こども病院)

日時：2022年7月9日(土)、10日(日)

会場：福岡国際会議場

テーマ：今、目の前のこの子にできること～子どもの尊厳・生活・未来を守る小児看護実践～

【2021年度 第31回学術集会会長挨拶】

第31回学術集会会長の埼玉県立大学 教授 添田啓子氏から開催日時、メインテーマ、開催方法、参加登録方法、事前登録の日時の確認、協力及び参加が呼びかけられた。

【閉会】

浅野理事長より、すべての議題を終了し、15:42

一般社団法人日本小児看護学会 2021 年度の社員総会を閉会した。

配布資料一覧

- ・一般社団法人日本小児看護学会 2021 年度社員総会（評議員会）資料
- ・成人患者との混合病棟における子どもの療養環境向上のための具体的対策に関する提言(案) 別添資料 1

この議事録が正確であることを証するため、議長及び議事録署名人により以上の議事を認め署名押印する。

2021 年 6 月 21 日

議長

浅野 みどり



議事録署名人

友田 尋子



議事録署名人

市原 真穂

